



射水市名誉市民

やまざき たかお

山崎 高應

Yamazaki Takao

生年月日～没年月日

大正11年11月20日 生
～ 平成24年2月25日 没

決定年月日

平成8年6月19日議決

主な経歴

富山薬学専門学校教授
富山大学教授
富山医科薬科大学長

功績

山崎高應は、射水郡下村三箇(現射水市)に父山崎良次郎、母やいの二男として生まれました。

昭和20年東京帝国大学(現東京大学)医学部薬学科を卒業後、富山薬学専門学校の教授に就任、昭和24年には富山大学薬学部教授に就任しました。以降、温厚で実直な人柄に加え、科学者としての卓越した識見と豊富な経験をもとに後進の指導に情熱を傾け、多数の優秀な人材を世に送り出しました。

山崎が富山大学薬学部長だった昭和47年、国では無医大県解消政策の推進が閣議決定され、それをきっかけに富山県でも医科大学の設立に向けた機運が徐々に高まり、昭和50年には、医学と薬学の一体的・総合的な教育研究の推進と、東西医学の融合を目指して富山医科薬科大学が開学しました。

山崎は開学と同時に副学長に就任、開学したばかりの大学運営を軌道に乗せるとともに、開学後も富山大学の管轄となっていた薬学部や和漢薬研究所等の移管に当たっては、その中心となって取り組みました。

昭和63年3月に退官予定であった山崎は、同年2月の学長選挙で学内から幅広い支持を得て第3代富山医科薬科大学の学長に選出、学内から選ばれた初めての学長として、平成5年の看護学科新設や全国初となる和漢診療学講座の開設を実現するなど、同学の発展に大きな功績を残しました。

その他、学識経験者として、富山県の総合開発審議会委員、科学技術会議委員など数々の役職を歴任するとともに、富山県の伝統産業である薬業界に対しても富山県薬事審議会委員、家庭薬開発研究会委員として、その振興に寄与しました。

「温故而知新」(※)永年にわたり、富山県における薬学・薬業の発展振興に尽くした山崎の座右の銘です。

※ 温故而知新 『論語』「温故而知新、可以為師矣」から。昔の物事を研究し吟味して、そこから新しい知識や見解を得ること。古きをたずねて新しきを知る。

※ 関連施設 富山医科薬科大学薬学部創立100周年記念碑…表字の「温故知新」は、山崎学長(当時)の揮毫によるもの。(富山大学杉谷キャンパス内薬学研究資料館前に建つ。)

(『富山大百科事典』(北日本新聞社)、『広辞苑』(岩波書店) から引用)